

SIDR

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

《月報》
平成 23年 12月
(第48 ～52週)

発行年月日：平成24年(2012年)1月17日
発行：滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は、保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 23年				平成 22年 ^{*1}				感染症 類型	疾 病 名	平成 23年				平成 22年 ^{*1}			
		1～11月		12月		1～12月		1～12月				1～11月		12月		1～12月		1～12月	
		滋賀県	全国	滋賀県	全国	滋賀県	全国	滋賀県	全国			滋賀県	全国	滋賀県	全国	滋賀県	全国	滋賀県	全国
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	四類	鳥インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0		ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0		日本紅斑熱	0	159	0	19	0	133	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0		日本脳炎	0	8	0	1	0	4	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0		ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0		Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0		鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	1	0	0	0	0	0	2		ブルセラ症	0	0	0	2	0	2	0	0
	結核	289	27,534	46	3,276	251	26,704	0	0		ベネズエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0		ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0		発しんチフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0		ボツリヌス症	0	6	0	0	0	0	1	0
三類	コレラ	0	10	0	2	0	10	0	0		マラリア	0	72	0	4	0	76	0	0
	細菌性赤痢	3	276	2	20	2	235	0	0		野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	70	3,714	1	186	66	4,131	0	0	ライム病	0	7	0	1	0	13	0	0	
	腸チフス	0	21	0	1	0	32	0	0	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
四類	バラチフス	0	20	0	2	1	21	0	0	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
	E型肝炎	0	54	0	0	0	66	0	0	類鼻疽	0	3	0	0	0	4	0	0	
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0	0	0	レジオネラ症	11	730	1	74	10	751	0	0	
	A型肝炎	0	168	0	8	3	346	0	0	レプトスピラ症	0	24	0	2	0	20	0	0	
	エキノコックス症	0	14	0	1	0	17	0	0	ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0	アメーバ赤痢	2	742	0	61	7	845	0	0	
	オウム病	0	13	0	0	1	11	0	0	ウイルス性肝炎	1	221	0	20	3	222	0	0	
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	急性脳炎	1	226	0	23	0	241	0	0	
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	1	0	クリプトスポリジウム症	0	8	0	0	0	16	0	0	
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	122	0	8	2	171	0	0	
	Q熱	0	1	0	0	0	2	0	0	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	179	0	13	3	127	0	0	
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0	後天性免疫不全症候群	5	1,321	1	157	1	1,549	0	0	
	コクシオイデス症	0	2	0	0	0	1	0	0	ジアルジア症	1	56	0	11	1	80	0	0	
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0	髄膜炎菌性髄膜炎	0	10	0	2	0	7	0	0	
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	先天性風疹症候群	0	1	0	0	0	0	0	0	
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	梅毒	6	727	0	90	9	621	0	0	
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	破傷風	1	102	0	9	0	106	0	0	
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
	チクングニア熱 ^(*)	0	9	0	1	-	-	0	0	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	59	0	9	2	121	0	0	
	つつが虫病	0	298	1	140	2	406	0	0	風しん	2	351	0	18	5	89	0	0	
	デング熱	1	96	0	8	2	245	0	0	麻疹	1	426	0	8	1	455	0	0	
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	動物の 感染症	鳥インフルエンザ(H5N1)の鳥類	0	72	0	0	0	9	0	0
											細菌性赤痢のサル	9	27	0	10	0	59	0	0
											エキノコックス症の犬	0	0	0	0	0	1	0	0

(*)：感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。－：未集計

*1 感染症発生動向調査事業年報(国立感染症研究所感染症情報センター、暫定数)

(*)：感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。－：未集計

*1 感染症発生動向調査事業年報(国立感染症研究所感染症情報センター、暫定数)

滋賀県における全数報告感染症の概要 (12月)

＜結核＞ 46名
性別：男性 25名、女性 21名
類型：患者 22名
無症状病原体保有者 24名
病型：肺結核 14名
その他の結核 8名
無症状病原体保有者 24名

＜細菌性赤痢＞ 男性 25歳、34歳
推定感染経路は不明で、推定感染
地域はインドです。

＜腸管出血性大腸菌感染症＞
性別：男性 1名
類型：患者 1名
年齢：70歳
血清型・毒素型：
O157・VT1+VT2 1名

＜つつが虫病＞ 男性 59歳
推定感染経路は動物・蚊・昆虫等の
感染で、推定感染地域は日本国内で
す。

＜レジオネラ症＞ 男性 69歳
推定感染経路は塵埃感染で、推定
感染地域は日本国内です。

＜後天性免疫不全症候群＞
男性 40歳
推定感染経路は不明で、推定感染
地域は日本国内です。病型はAIDSで
す。

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

12月の概要

<インフルエンザ>

先月より大幅に増加し、第49週(12/5～12/11)には、草津および甲賀保健所管内の定点当たり患者数が流行の目安とされる1.00超え、さらに第50週(12/12～12/18)には、長浜保健所管内の定点当たり患者数が1.00を超えたため、滋賀県全体としてインフルエンザの流行期に入りました。全国では、第49週に流行期に入っていました。また、草津および甲賀保健所管内では第51週(12/19～12/25)に、長浜保健所管内では第52週(12/26～1/1)に注意報発生基準値 10.00を超えていました。

<小児科定点疾患>

今月は大部分の疾患で増加し、特に、咽頭結膜熱(プール熱)、感染性胃腸炎および水痘で大幅に増加していました。減少した疾患は百日咳およびヘルパンギーナのみでした(各疾患の週別発生状況は、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

咽頭結膜熱(プール熱)-----高島保健所管内では、第50～52週(12/12～1/1)に警報発生基準値(警報開始基準値3.00、警報終息基準値1.00)を超えていました。

水痘-----長浜保健所管内では第50週に、草津保健所管内では第51週に、甲賀保健所管内では第52週に注意報発生基準値(4.00)を超えましたが、各保健所管内とも、次週には注意報発生基準値未満となっていました。

手足口病-----長浜保健所管内では、第48～51週(11/28～12/25)に警報発生基準値(警報開始基準値5.00、警報終息基準値2.00)を超えていました。草津保健所管内では、第49～52週(12/5～1/1)に警報発生基準値を超えていました。

流行性耳下腺炎-----東近江保健所管内では、第51週に注意報発生基準値 3.00を超えましたが、次週には基準値未満となりました。(おたふくかぜ)

<眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月より増加し、草津保健所管内でやや多くなっていました。急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。基幹定点疾患である細菌性髄膜炎および無菌性髄膜炎の報告はありませんでした。マイコプラズマ肺炎は先月より減少していましたが、東近江でやや多くなっていました。また、クラミジア肺炎は、大津市保健所管内からの報告がありました。

<インフルエンザ(入院)>

第51週(12/19～12/25)に、インフルエンザ入院患者 2名(17歳、88歳)および第52週(12/26～1/1)に3名(1歳、75歳、92歳)の届出がありました。また、全国における第48～52週(11/28～1/1)の入院患者数は374名でした。

<疑似症定点からの報告>

報告はありませんでした。

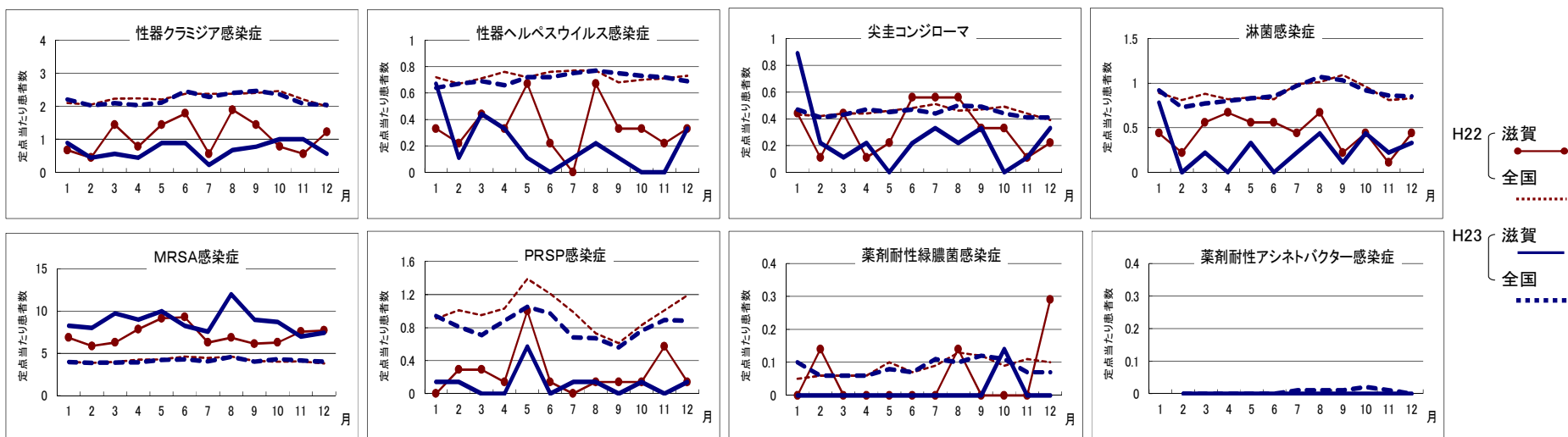
<各定点の対象疾患>

定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ 病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

3) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成 23 年 12 月)

疾 患 名	区 分	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合 計
性器クラミジア感染症	報告数	8	4	5	4	8	8	2	6	7	9	9	5	75
	定点当たり患者数	0.89	0.44	0.56	0.44	0.89	0.89	0.22	0.67	0.78	1.00	1.00	0.56	8.34
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	6	1	4	3	1	0	1	2	1	0	0	3	22
	定点当たり患者数	0.67	0.11	0.44	0.33	0.11	0	0.11	0.22	0.11	0	0	0.33	2.43
尖圭コンジローマ	報告数	8	2	1	2	0	2	3	2	3	0	1	3	27
	定点当たり患者数	0.89	0.22	0.11	0.22	0	0.22	0.33	0.22	0.33	0	0.11	0.33	2.98
淋菌感染症	報告数	7	0	2	0	3	0	2	4	1	4	2	3	28
	定点当たり患者数	0.78	0	0.22	0	0.33	0	0.22	0.44	0.11	0.44	0.22	0.33	3.09
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	報告数	58	56	68	63	70	58	53	84	63	61	49	52	735
	定点当たり患者数	8.29	8.00	9.71	9.00	10.00	8.29	7.57	12.00	9.00	8.71	7.00	7.43	105.00
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	報告数	1	1	0	0	4	0	1	1	0	1	0	1	10
	定点当たり患者数	0.14	0.14	0	0	0.57	0	0.14	0.14	0	0.14	0	0.14	1.41
薬剤耐性 緑膿菌感染症	報告数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	定点当たり患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.14	0	0	0.14
薬剤耐性 アシネトバクター感染症 ^(*)	報告数	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	定点当たり患者数	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

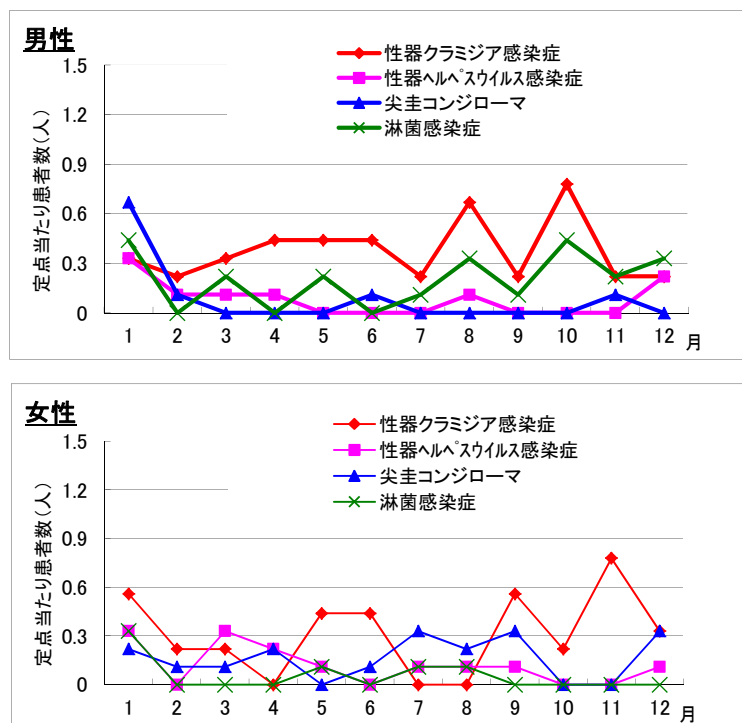
*: 感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。—は未集計。



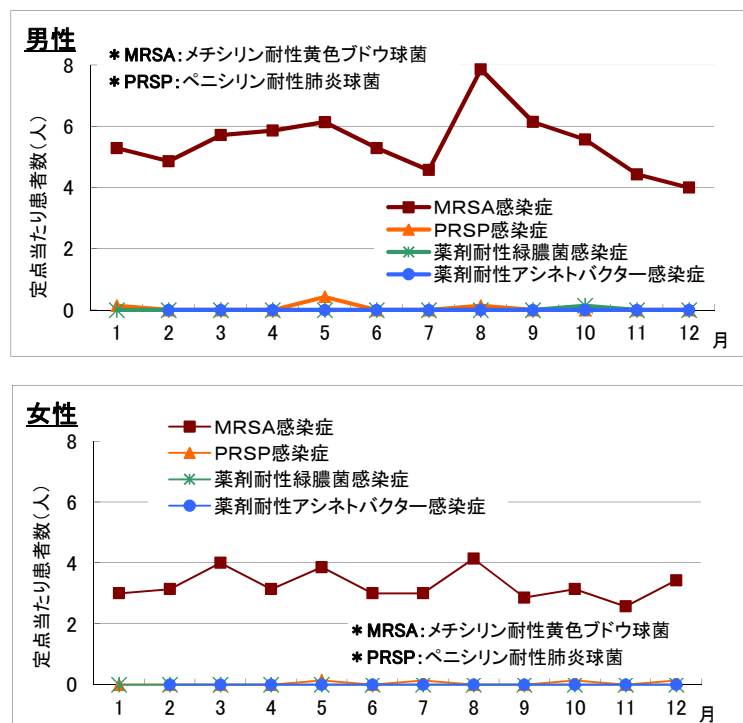
滋賀県における発生状況は上記に示すとおりです。先月と比較すると、大部分の疾患で増加し、尖圭コンジローマは先月に引き続き微増となっています。減少した疾患は性器クラミジア感染症のみで、先月の半減となっています。また、薬剤耐性緑膿菌感染症および薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

MRSA: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
PRSP: ペニシリン耐性肺炎球菌

性感染症定点における疾患別発生状況 (H23.12)



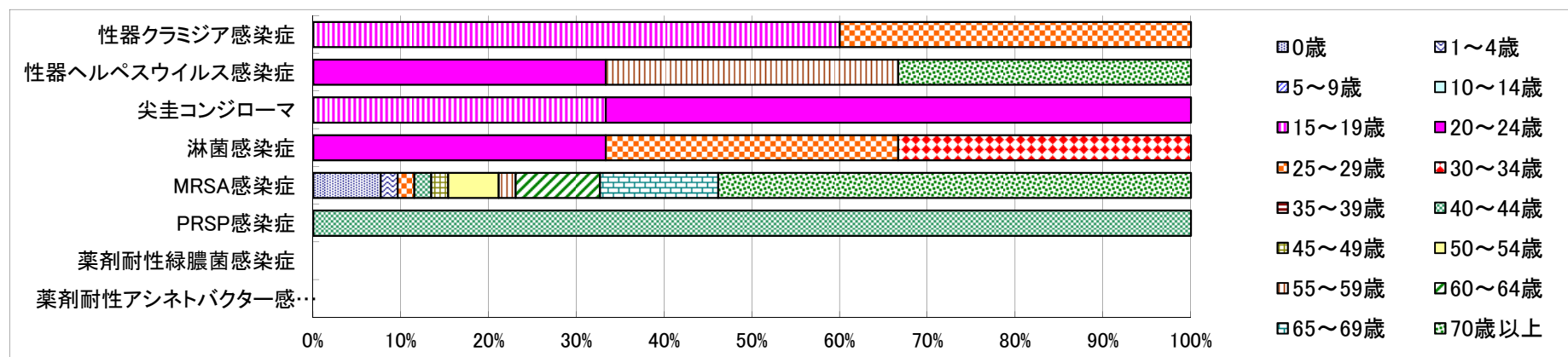
基幹定点における疾患別発生状況 (H23.12)



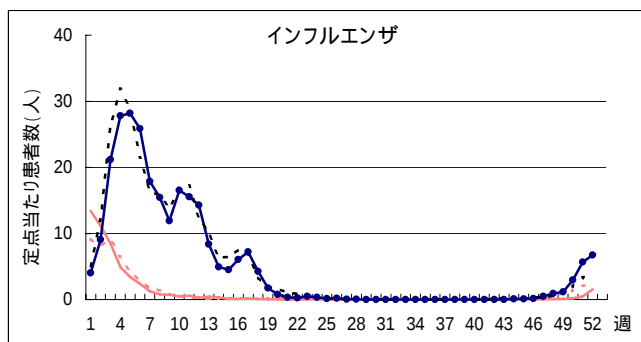
性感染症定点および基幹定点における各疾患の月別・性別発生状況は、左記グラフに示すとおりです。性器クラミジア感染症では、女性で大幅に減少していました。尖圭コンジローマでは、女性で大幅に増加していました。淋菌感染症では、男性で増加し、女性からの報告は先月に引き続きありませんでした。

また、各疾患の年齢別発生状況は、下記グラフのとおりです。性器クラミジア感染症および尖圭コンジローマでは、15～19歳からの報告がありました。

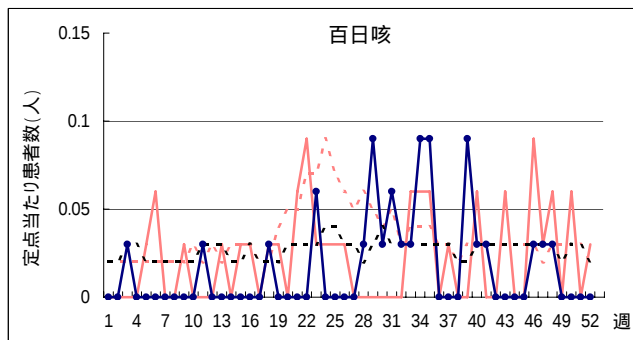
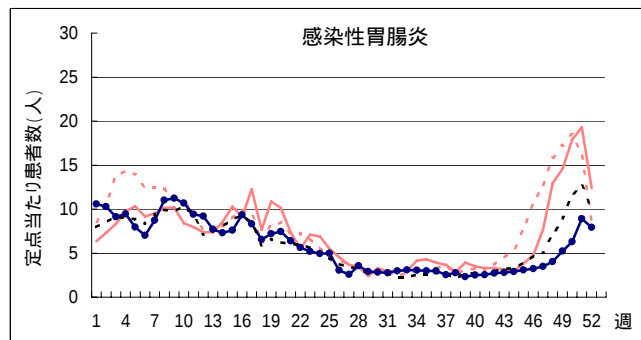
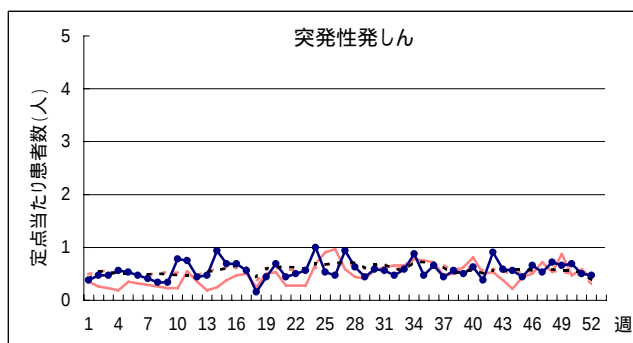
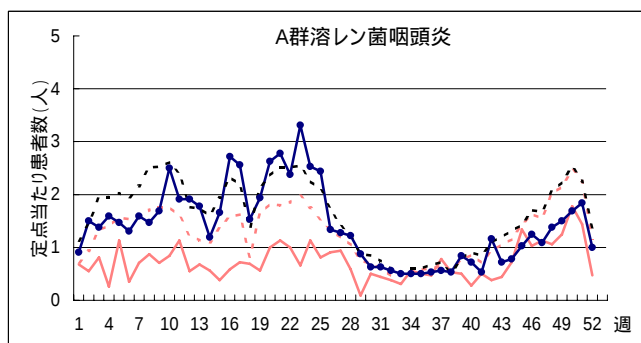
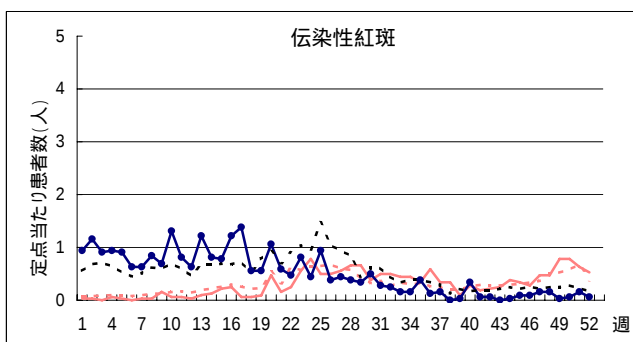
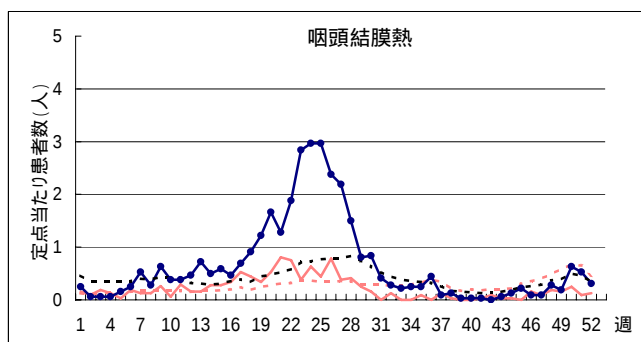
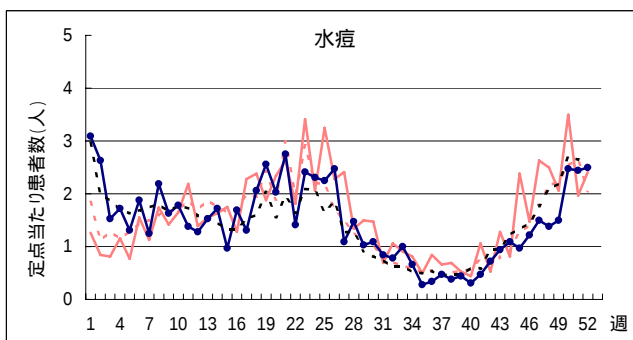
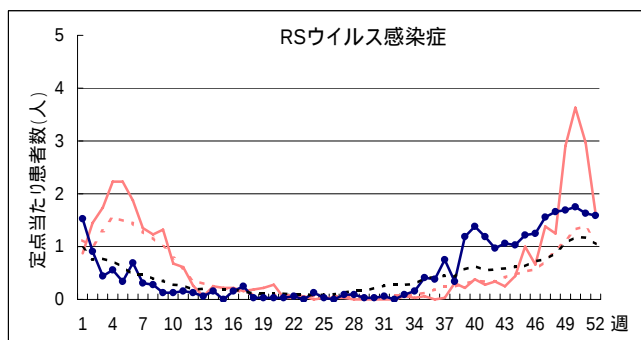
疾患別・年齢別発生状況(H23.12)



疾病別定点当たり患者数(平成23年第1～52週、H23.1.3～H24.1.1)



H22 { 滋賀 ————
 全国
 H23 { 滋賀 —●—
 全国 - - - - -



疾病別定点当たり患者数 (平成23年第 1 ~ 52週、H23.1.3 ~ H24.1.1)

H22 〔 滋賀 ——— 全国 〕
H23 〔 滋賀 ——— 全国 〕

